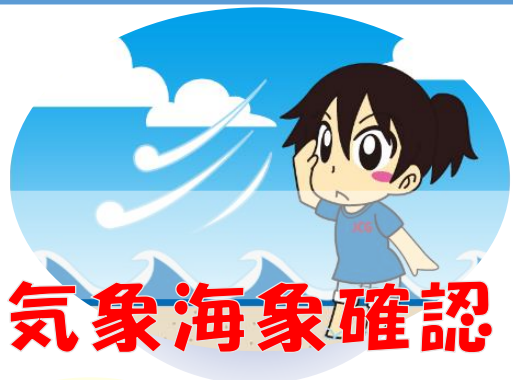


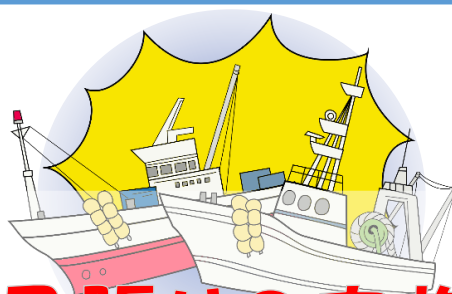
🍁 秋季安全推進活動 🍁

毎年10月は「全国漁船安全操業推進月間」として、(一社)大日本水産会が全国の漁業者及び漁業関係者に対して、事故防止のための周知啓発キャンペーンを実施しています。

海上保安庁においても同期間に「**秋季安全推進活動**」を実施し、漁業者等に対し、海難防止講習会や安全パトロール等を行い事故防止を呼びかけます。



● 気象海象確認！



● 見張りの実施！



救命胴衣
の着用



連絡手段
の確保



海の事故は
118番

● 巻き込まれ注意！



● 足元に注意！



第二管区海上保安本部
宮城県塩釜市貞山通3-4-1

海の安全推進本部
(代表) 022-363-0111

海の安全情報

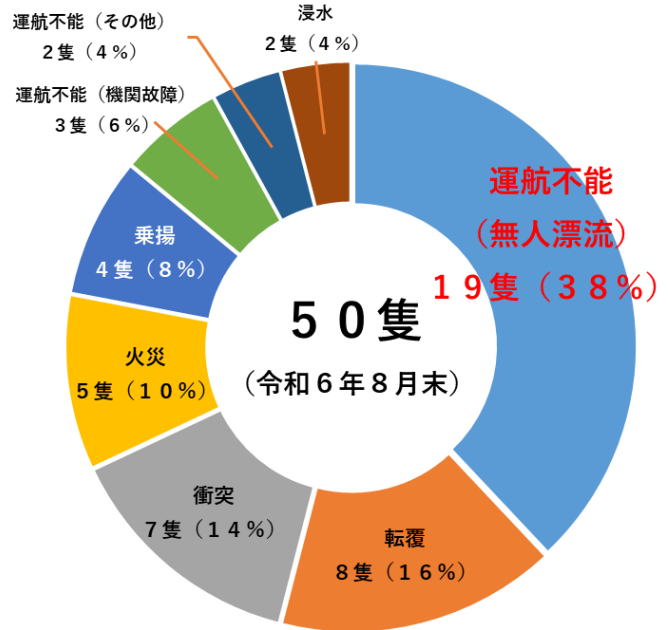
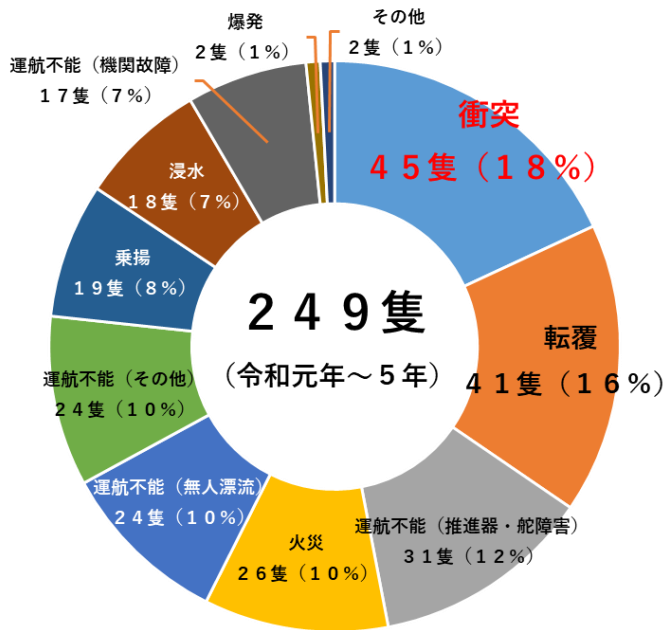


漁船かわら版



1 東北地方における漁船による船舶事故

海難種類別



※ 衝突は単独衝突も含む。

※ 令和6年の数値については速報値

○ 傾向と対策

令和元年から5年においては**衝突**が最も多いですが、令和6年は**運航不能(無人漂流)**が増加しました。これは令和6年1月から2月にかけて、発達した低気圧が東北地方に接近し、**東の風が強くなり、太平洋側の港で強風や高波の影響が大きくなったこと**で、多くの漁船が被災したことによるものです。幸い人命に関わる事故には至っていませんが、多くの漁船が**乗揚・転覆・浸水に繋がり、多大な被害**が発生しました。

事故原因としては、**いつもと異なる荒天に対する十分な準備が不足していたこと**が考えられ、**事前に風向き等の気象情報(予報)を入手し、適切な荒天対策**を行うことが重要です。



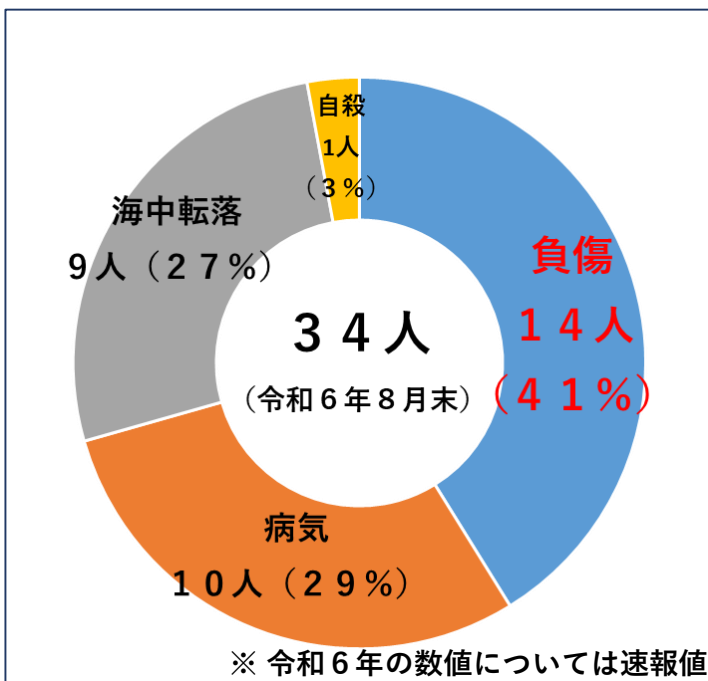
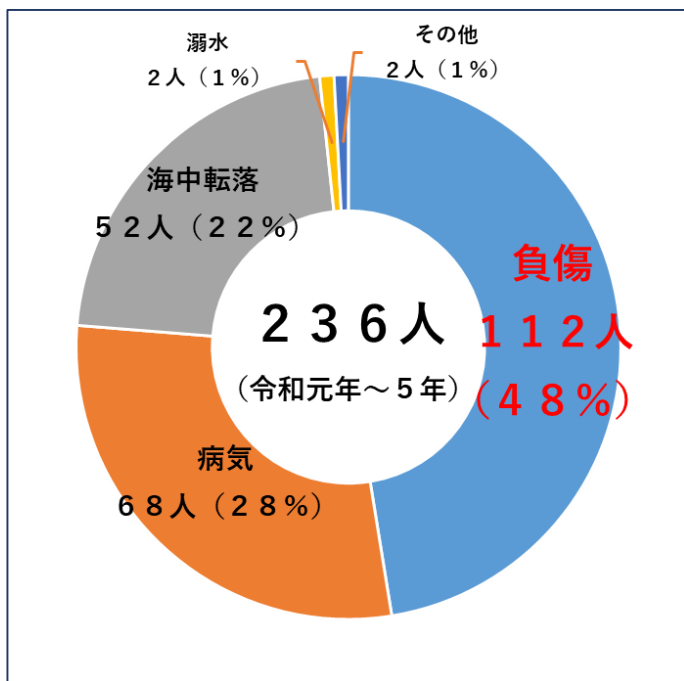
◎ 適切な荒天対策とは？

- ✓ 係留索を点検するとともに、索の本数を増やす等の係留強化
- ✓ 可能であれば、船舶を陸揚げ(固縛)
- ✓ 擦れあて、防舷物は適切な位置に、適切な数量を設置
- ✓ 開口部は確実に閉鎖
- ✓ 係留索は高潮等による潮位変化を考慮して調整

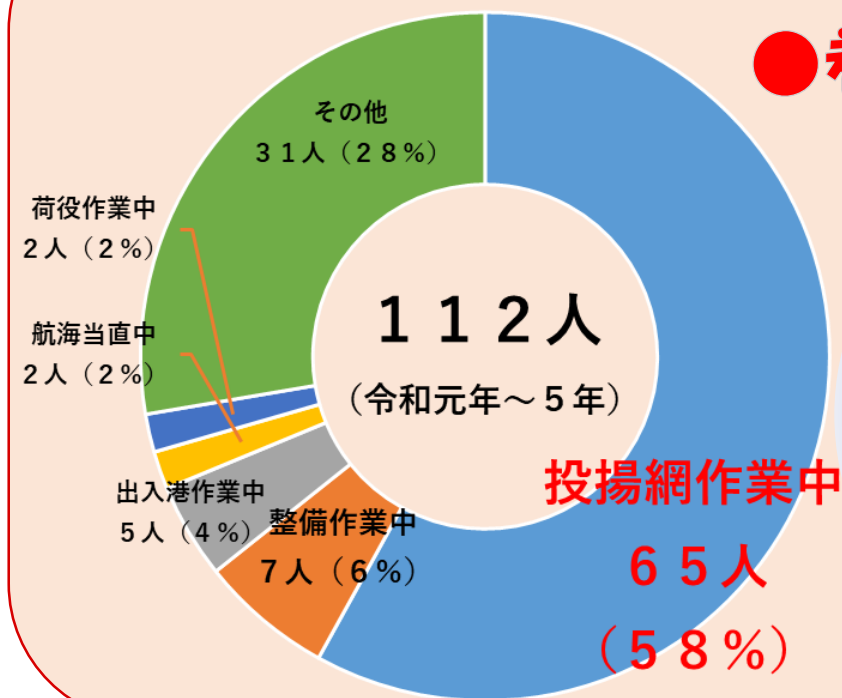


2 漁船乗組員による人身事故

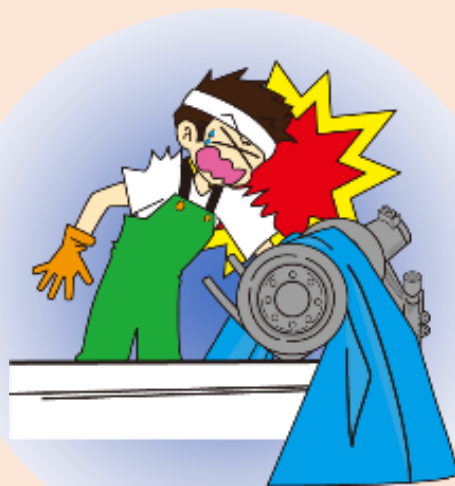
事故内容別



漁船負傷事故発生時の状況



●巻き込まれ注意!



○ 傾向と対策

漁船乗組員による人身事故では**負傷**が最も多く、**投揚網作業中**に最も多く発生しています。ローラー作業を行う際は、

- ① 手袋、作業着が巻き込まれないように注意
- ② ローラーに漁具が絡まる等トラブルが発生した際は、**停止してから対処**
- ③ 巻き込まれた際、すぐに停止できるように**複数人**で作業

を心掛けましょう!